

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論を実施しました (2023/12/2)

テーマ：土砂災害の基礎と対応方法、近年の風水害の傾向と対策、地震と火山噴火の起こり方、近年の地震の振動被害の傾向と対策
会場：web（ホスト：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市））

2023年12月2日（土）、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論を、オンラインで実施しました。プログラム履修生7名（医療従事者）、オープン参加者3名、計10名が受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）、榎田竜太准教授（地震工学研究分野）が全体進行、森口周二准教授（計算安全工学研究分野）、福島洋准教授（陸域地震学・火山学研究分野）、大野晋准教授（地震工学研究分野）、また関西大学の橋本雅和准教授（環境都市工学部）が講師を務めました。

ふだん病院や消防署、市町村役場などに勤務しているプログラム履修生は、土砂災害、台風・洪水などの水工学、地震火山噴火、建物耐震メカニズムなど、災害の基本となる学術的な知識に触れる機会はほとんどありません。学際的に災害を学び、多角的視野から災害にアプローチできる保健医療人材の育成が、本プログラムの特徴の一つです。森口准教授の「気象庁サイト『キキクル』を平時から使い倒しておくこと」、橋本准教授の「堤防があるからこそ洪水ハザードマップが必要になってしまう」などのコメントに、履修生らは他分野との連携の重要性や、防災ハード発展の弊害についても学ぶことができました。

社会の災害対応力向上にはそれを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所ではこのような実践的研修会を継続して開催していきます。



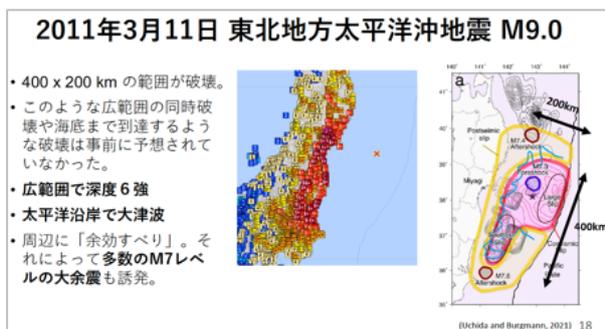
土砂災害の基礎と対応方法
(森口准教授)



近年の風水害の傾向と対策
(橋本准教授)



近年の地震の振動被害の傾向と対策
(大野准教授)



地震と火山噴火の起こり方
(福島准教授)



Webで受講する履修生ら